日刊 動労千葉

81.10.6

No.862

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〔0472〕(22)七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

反戦の砦、三里塚を守れ！

10・11三里塚人総結集しよう

いま労働者はなにをなすべきか。戦争政策に反対する。「行政改革」に反対する。右翼的労戦統一に反対する。等々。しかし、しかし、その通りだ。しかしはっきりしていることは、日帝・鈴木体制が体制的危機からの延命をかけて軍事大国化・改憲の凶暴な攻撃をかけている時、反対の声をあげるだけでは無力ではないのか。われわれはこの様に考える。日帝・鈴木体制の戦争と反動攻撃を根幹からうち破る道は、三里塚に勝利することだ。三里塚闘争を労働者人民の課題におしあげ三里塚二期決戦に勝利することが、いま労働者がなすべき唯一の課題ではないのか。

人民を三里塚に結集しきることが実現すれば必ずや、二期工事を阻止し、軍事大国化・改憲攻撃の道を断つことも可能である。

「本部」反動分子のように「三里塚は権力の謀略」「スパイ」「ネオファシズム運動」などと悪ばを投げかけ、敵対するものは、追放・一掃あるのみだが一部の労組の中にも「三里塚の闘いは素晴しい。しかし自分の職場のことが大事」だといって、三里塚闘争から目をそらす人達がいる。しかしこれは間違った考えではないのか。

労働者は階級的利益のためには「ゼニ・カネ」の算段をもて闘うのでなく、労働者の生き様をかけてたたかうのでなければならないのではないか。

われわれは、そういう立場で千三百組合員が総決起し組織をかけて八一・三闘争を闘いぬいてきたし、この一致団結した力があるからこそ職場や労働条件を守ることができている。

敵権力の凶暴な弾圧を恐れてはならない。凶暴な弾圧の中に敵の弱点を見出し、勝利を確信してたたかうことだ。

三里塚農民は、十六年間にわたってこれを闘いの実践をもってさし示している。

十六年に及ぶ不屈の斗いの炎を消すな！

三里塚芝山農民は、十六年間にわたって「農地死守」「軍事空港粉砕」を掲げて不屈に闘いぬいてきた。七〇年安保闘争以後、労働運動はもとより、階級闘争総体が後退する中にあって、三里塚のみが全人民の共闘の砦として持続した闘いをもって「国策」という軍事空港建設の前にたちはだかってきた。

この十六年間の不屈の闘いの炎を敵権力の手によって消させてはならない。闘いの炎をより大きく熱く燃やし勝利させぬ限り、どうしてわれわれ労働者人民の未来があるというのだ。

三里塚から軍事大国化・改憲攻撃に反撃しよう！

日帝・鈴木体制は、二期強行着工をもって三里塚＝反戦の砦を叩きつぶし、十六年間あれほどの闘いをもってしても敗北した三里塚」と労働者人民の総屈服をひきだし、八〇年代中期の軍事大国化・改憲攻撃を一挙に実現しようとしているのだ。しかし、裏をかえせば、ここに日帝鈴木体制の弱点がある。多くの労働者人民は、戦争への強まりと生活破壊の現実のなかで危機感をもっている。生きる為には、たたかわねばならないと直観している。この多くの労働者

9月29日、成田支部組合員は"看板闘争"に決起した。（成田駅ホーム）

反対同盟のよびかけに応えよう！

反対同盟は九・六横堀墓地奪還集会の闘争宣言の中で「三里塚二期決戦は、三里塚の勝負だけでなく、日本人民の未来をかけた闘いである。10・11決戦こそ、歴史的決戦の巨大な幕明けである」と闘いへの結集と決起をよびかけている。われわれ労働者は、この反対同盟のよびかけを自らの課題として受け取り労働者の階級的良心をかけ二期決戦勝利、憲法改悪・軍事大国化阻止へむけて決起しなければならないと考える。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！